

## 高雄日本人学校「日本語指導」について

- 「日本語指導」の目的：現地の児童が、日本の文化・社会を伝え、日本に親近感を持てるようになる。活動の中で、簡単な日本語を導入し、日本語で簡単なやり取りができるようになる。
- 時間や体制：小学校5, 6年生を対象に、年に3時間の授業を行う。(1コマ45分)。
- 6年生は前年度に3時間の指導を受けていると想定されるものの、年に3時間の授業であることからあまり多くを習得しているとは考えにくい。
- (日本語指導が中心課題ではないので)積極的に現地語を使用して差し支えない。

## 本「日本語指導：活動案」について

本活動案は、高雄日本人学校において使用されてきた指導案+パワポをもとにしている。高雄では現地語の使用を前提として作成されているが、地域によっては現地語の使用が困難な場合も想定される。このため、特に6学年では、直接法(日本語を使って日本語を指導する)による指導を想定して加筆修正した。一方、5学年の指導については、高雄の指導案を基本とし、その他の活動例などを掲載することとした。

活動案作成の考え方として、「日本」「日本語」に触れる機会を提供することを第一義とし、日本語については「指導する」より、『日本語で言えた』という満足感を重視している。このため、文法・発音の正確さや「です・ます調」での発話は要求しないこととした。同様に、海外の子どもたちに日本への興味関心を抱いてもらうには、イラストによる提示より写真や実物を使うのが望ましいと考える。

なお、現地における日本に関する情報量と、現地語へのアクセス(現地語に翻訳できる人材、教員の現地語能力)によって指導できる内容は変わってくる。日本になじみはなくても、「珍しい言語」としての日本語に関心を持つこともある(高学年の場合)。現代日本社会を伝えること、日本語に触れてもらうことのどちらが現地の子どもたちにとって関心があるかを見極めて「学習項目」を選択する必要がある。

## 「活動案」の使用に当たって

- 指導の展開に合わせ、現地の子どもたちにふさわしい写真や実物などを使用することが望ましい。難しければ添付のイラストを参考に、スライド等を用意する(「指導上の留意点」に使用するイラストを【 】で示した)。なお、現在、イラストには日本語が使用されているが、先述の通り、スライドやワークシートに母語(現地語)による指示や説明をすることは差し支えない。また、文字の提示が必要なればひらがなを削除するなどの工夫をしてほしい。
- 提示する日本語については、あくまでも「日本語に触れる」ことを第一とするため、常体でのやり取り、助詞の省略等については可としている。現地のニーズに応じて調整が必要である。
- 指導上の留意事項については吹き出しで、指導を考える上でのヒントやその他の可能性などは枠内に記述した。

指導上の留意事項

考え方のヒント、その他の活動など

日本語指導 5 年生 第 1 時

1. 本時の目標

- (1) 簡単なあいさつができるようにする。
- (2) 自分の名前が日本語でどのように発音されるのかを知り、返事ができるようにする。

2. 新出の表現と単語

【表現】・「おはようございます」「こんにちは」「こんばんは」「さようなら」「ありがとう」「ごめんなさい」「はい」

- ・日本語読みで、自分の名前の呼び方を知り、返事をする事ができる。

3. 本時の展開

	学習内容	指導上の留意点
挨拶	教師の自己紹介 日本語例：こんにちは。私は（名前）です。日本の（出身地）から来ました。（出身地）には（観光地、有名なもの）があります。・・・	・日本語で行う場合は、パワポで名前、出身地についての情報（日本のどこにあるか、有名なものなど）を用意する。 現地語が使える場合は使用して自己紹介をしても差し支えない。
導入	日本について知っていること 行ったことがあるか、知っている日本語、知っている日本人など。	・できるだけ多くの児童に日本のことを話させる。 ・現地語が使えない場合は、この部分は割愛して展開に入る。
展開	学習内容① 日本のあいさつを知る。 ・おはようございます ・こんにちは ・こんばんは ・さようなら ・ありがとう ・ごめんなさい	・パワポを利用して、様々なあいさつについて学習する。 【PPT①挨拶】 ・順番に学習した後に、クイズ形式で指名して挨拶をさせる。
	学習内容② 日本語での名前の呼び方を知る。 ー日本風の発音を知る パワポに現れた名前を日本風に発音する。 例：パワポ「Elizabeth」 T「エリザベス」 ー名前を認識し、呼ばれたら返事をする T：〇〇さん S：はい	・パワポで、各クラス全員分の氏名を準備しておく。 ・パワポでランダムに呼名して返事をする。

子ども同士、先生と子どもの両方の絵を使い、「おはよう」「おはようございます」の違いを示す。「ありがとう」「ごめんなさい」はそのまま（「ありがとうございます」「ごめん」は扱わない）とする

呼名では「名前+さん」であることに注意。

	<p>名前（ファーストネーム）のみでもよい。この授業では、「自分の名前」と認識でき、返事ができることがポイントだが、高学年では名前を書きたがる子どもも多い。</p>	
まとめ	今日の学習内容を振り返る	・次時には再度呼名の練習があることを伝える。

#### その他の活動

5～6人のグループに分かれ、ボールをパスしながら挨拶の練習をしてもよい

- ・「〇〇さん、おはよう」といって〇〇さんにボールをパスする。〇〇さんは受け取ったら、もらった相手に対して「××さん、おはよう」とあいさつする
- ・「〇〇さん、どうぞ」といって〇〇さんにボールをパスする。〇〇さんは受け取ったら、もらった相手に対して「××さん、ありがとう」という
- ※ 「ごめんなさい」は扱うのが難しい。適切と思う表現を提示する。例：「いいよ」「だいじょうぶ」など？
- ※ 大きなボールは危ないので、ビーチボールがよい。日本の紙風船を使用すると大変喜ばれる。

1. 本時の目標

- (1) じゃんけんを通して日本語のリズムをつかむ。
- (2) 「同じ・違う」の意味を理解したうえで、使えるようにする。
- (3) 1 から 10 までの数の言い方を知る。

2. 新出の表現と単語

【表現】「じゃんけんぼん」「これ、誰の?」「私の」「あなたの」  
 「これ、どこの?」「日本の」「台湾の」「同じ」「違う」

【単語】これ・グー・チョキ・パー・じゃんけん・誰・どこ・1～10

3. 本時の展開

時間	学習内容	
導入	●復習 挨拶・呼名「～さん」「はい」 絵カードであいさつの復習	前時、ファーストネームのみの場合はファーストネームで ・フルネームで呼名する。
展開	学習内容① じゃんけんの言い方を知る。 「じゃんけんぼん」	・現地語の情報が得られれば付け加える 例) 剪刀=チョキ 石頭=グー 布=パー ・時間数が少ないので、シンプルに「じゃんけんぼん」 【PPT②じゃんけん】
	じゃんけんを取り入れる際は、現地のじゃんけん（有無、ルール、意味、掛け声のリズム）について情報を得る必要あり。じゃんけんがない国では、時間がかかるので、じゃんけんをメインの学習項目にすることも検討する。	
	学習内容② 「(これ、) だれの」 「わたしの、〇〇さんの」	・子どもたちの学習用具を使って何度も練習する。
授業展開によっては「だれの」「〇〇さんの」を割愛することも可能。(後述)		
学習内容③ 「おなじ」「ちがう」	・パワーポイント使って「同じ」「違う」を理解させる。【PPT③同じ・違う】	
学習内容④（異文化理解） 「これ、どこの」「台湾の、日本の」 「おなじ」「ちがう」	・日本と現地の文化を写真で比較しながら、学習内容①②を使って答える。	
学習内容⑤ 1～10の言い方を知る。	・時間に余裕があれば3×3のビンゴを行う。	
まとめ	今日の学習内容を振り返る	

本時の活動について

本時は学習項目が多いのでしぼってもよい。

1. じゃんけんのみを扱う（じゃんけんがない国・類似のものはあるが日本とはかなり異なる国）

- ① グー・チョキ・パーの意味を絵で伝え、なぜ・どちらが強いのかをスライド等で示す。
- ② 「じゃんけんぽん」をリズム載せて言えるようにし、「ぽん」に合わせて3つのうちから一つを出すことをジェスチャーで伝える。
- ③ 教師 vs. 児童でゆっくりじゃんけんをする ⇒ 徐々にスピードアップする

スピードが早くなっても、リズムは同じであることが重要

- ④ 全体での掛け声に合わせて隣の友達とじゃんけんをする。
- ⑤ ゲームをする 例：負けた人は座る⇒クラスで一番強い児童を決める  
紙を渡して、じゃんけんに勝ったら相手に名前を書いてもらう（たくさん名前を書いてもらえた人はじゃんけんが強い）  
異なる10人の友達とじゃんけんをし、結果を○×で記録する⇒勝率を出す

2. 学習内容②を省略し、日本と現地の違いにつなげる。（じゃんけんがある国）

「グー」の意味を通して「同じ／違う」を導入 ⇒ 「学習活動④」へ

3. 学習内容②を省略し、学習内容④では、「日本」「○○」を使う。

- ① 日本の写真を見せ「日本」、現地のものを見せ「○○」で導入
- ② T: (日本のバスを見せ) 日本。○○、同じ？違う？  
T: (写真を見せ) 日本？○○？ ⇒ 異なる国のものを示して「どこ」を導入することも

4. 数字を中心に扱う ← 数字とじゃんけんを扱うなら、数字を先にすると上記1の活動で数字が使える。

- ① 1～10の数字の言い方を確認する
- ② ゲームで定着を図る  
例：Tが言った数字の人数のグループを作る  
「+ (たす)」「- (ひく)」を導入して回答の数だけ手をたたく

日本語指導 5 年生 第 3 時

1. 本時の目標

- (1) 日本の食べ物、アニメについて「知っている」「知らない」の表現を使うことができる。
- (2) 食べ物やアニメなどについて、「好き」「嫌い」の表現を使えるようにする。
- (3) 日本の食べ物と台湾の食べ物の違いを知る。

2. 新出の表現と単語

【表現】「知っている」「知らない」「好き」「嫌い」

【単語】(既習) わたし (新出) 知っている・知らない・好きです・嫌いです

3. 本時の展開

時間	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>●復習 挨拶・呼名「～さん」「はい」</p> <p>●じゃんけん</p>	<p>必要に応じて、前回のスライド等を使用する。</p>
展開	<p>学習内容① 「知っている」「知らない」</p>	<p>・日本の食べ物、アニメの絵を見せて、「知っている」か「知らない」で答える。</p>
	<p>「なに？」をそれまでに導入していれば、絵や写真を使って「なに？」⇒「好き？」というやり取りをすることが可能。その場合「知っている」「知らない」は後に回す（「なに？」と聞いて返事がなければ「知っている？」と問う）</p>	
	<p>学習内容② 「好き」「嫌い」</p> <p>T: (PPT で示しながら) 好き(です)、嫌い(です)</p> <p>T: (写真・絵を見せながら) 好き? 嫌い?</p> <p>C1: 好き</p> <p>C2: 嫌い</p> <p>T: (マンガを見せながら) 何?</p> <p>C1: ドラゴンボール。</p> <p>T: ドラゴンボール、好き?</p> <p>C2: 好き</p>	<p>・食べ物を使って好き・嫌いを導入する。好き嫌いが激しいもの（日本ならピーマンや牛乳など）を使うとよい。【PPT④好き・嫌い】【PPT⑤果物、⑥食べ物、⑦スポーツ】</p> <p>好き嫌いが導入されたら、いろいろなもの(写真)を使って「好き」「嫌い」で表現させる。</p> <p>・日本の食べ物、アニメの絵を見せて、「好き(です)」「嫌い(です)」で答える。</p>
<p>学習内容③ 「一番好き」</p> <p>T: (一人の児童を指名し、PPT⑤果物を使って「何?」「好き?」を繰り返す。「好き」としたイラストのみ示し、ジェスチャーとともに)</p> <p>1番、何? 何が一番好き?</p> <p>C1: りんご</p> <p>T: りんごが一番好き</p>	<p>食べ物、スポーツなどの絵を見せ、1番好きなものを「〇〇が一番好き」という表現で伝える。</p>	

じゃんけん勝ち抜き戦などをしてよい。優勝者は「一番」と紹介すると後につながる。

果物、食べ物、スポーツなどの語を導入し、「果物でりんごが一番好き」までもっていくことも可能

	学習内容④（異文化理解） 日本文化の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の文化を表す写真を見せて、「知っている」「知らない」を使って答える。</li> <li>・そのほか、日本について知っていることを共有する。</li> </ul>
まとめ	今日の学習内容を振り返る	

常体か敬体かは、状況によって選択する。ただし、問いと答えは一致させる：  
 知ってる？ 知ってる／知らない or 知っていますか？ 知っています／知りません  
 好き？ 好き／きらい or 好きですか？ 好きです／きらいです

日本語指導6年生 第1時

(1) 本時の目標

名前と好きなものを書いて名札作りができる。

(2) 新出の表現と単語 わたしは〇〇です・～が好きです・よろしくお願いします。

(3) 本時の展開

時間	学習内容	指導内容など
導入	<p>教師の自己紹介をする。</p> <p>教員の自己紹介が、本時の活動のモデルとなるので留意する。モデルを示した後、他の情報（5年第1時など）を入れることもできる。</p> <p>1年前と同じ絵カードを使うとよい。</p> <p>昨年の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶</li> <li>・数字</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ppを表示し、教師が自己紹介をする。</li> <li>・絵カード等を使い練習する。【PPT①挨拶】</li> </ul> <p>時間がなければ省略しても差し支えない。</p>
展開	<p>学習内容①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは〇〇が好きです</li> </ul> <p>T：(りんごの絵を見せて) 好きですか？</p> <p>C1：すき</p> <p>T：C1さんはりんごがすきです</p> <p>C1：わたしはりんごがすきです</p> <p>T：C2さんはなにがすきですか</p> <p>C2：わたしはバナナがすきです</p> <p>学習内容② 名札づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前を書く。</li> <li>・好きな果物の絵を描く</li> </ul> <p>日本語を書くことが難しければ、日本語の名前はあらかじめ名札に書いておき、その下に母語で名前を書かせればよい。</p> <p>学習内容③</p> <p>日本語で自己紹介をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年前と同じ絵カードを使って思い出す。【PPT④好き・嫌い、⑤果物、⑥食べ物、⑦スポーツ】</li> <li>・「わたしは〇〇がすきです」という言い方を導入し、練習する。</li> </ul> <p>5年の時は「好きですか」という問いに答えるだけだったことに注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で名前を呼びながら、名札カードを配付する。</li> <li>・名札カードに印字された自分の名前を参考に、〇がついている面に名前をそのまま記入させる。 ※事前にクラスの名簿をもらい準備する。</li> <li>・名札カードの〇の中に、好きな果物の絵を描かせる。</li> </ul> <p>【PPT⑨自己紹介】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名札カードを使い、隣同士で自己紹介をさせる。</li> </ul>

	「わたしは〇〇です。」 「わたしは～が好きです。」 「よろしくおねがいます。」	・代表者に全員の前で自己紹介をさせる。
まとめ	今日の学習を振り返る	・この時間以降や学習時間以外にも日本語で挨拶や紹介をすることに挑戦することへの意欲付けを図る。

日本語指導6年生 第2時

1. 本時の目標

(1) 簡単な形容詞を使って、様子を表すことができるようにする。

2. 新出の表現と単語

【表現】「これ・あれ+形容詞」

【単語】形容詞、これ、あれ

3. 本時の展開

時間	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>●復習</p> <p>「簡単なあいさつ」</p> <p>「自分の名前を言ってみよう」</p>	<p>・カードを使って、思いださせる</p> <p>・できるだけ多くの生徒に名前を言わせる</p>
	<p>「(名前) です」「私は (名前) です」「私／ぼくは (名前) です」の3つのパターンが考えられる。学習者の状況に合わせて選ぶのが望ましい。</p>	
展開	<p>学習内容①</p> <p>「形容詞」おいしい、おもしろい、大きい、高い(値段が) + 児童が使いたがると思われる形容詞</p>	<p>・PPTを利用して、いくつかの形容詞について学習する【PPT④形容詞】</p>
	<p>学習内容② (異文化理解)</p> <p>— 児童が現地のものについて答える</p> <p>T: (現地の食べ物の写真を示しながら)</p> <p>これ、なんですか</p> <p>S: ○○ (です)</p> <p>T: おいしい (ですか) ?</p> <p>S: おいしい (です)</p> <p>※「No」という児童が多ければ、「おいしくない」「おもしろくない」を導入する。</p>	<p>「これ、なに？」も可</p> <p>形容詞に限定し、「～くない」を使用。「まずい」「つまらない」は使わない。</p>
	<p>会話のパターンを練習したら、学習内容①で扱った形容詞が使える現地のマンガ、アニメ、映画等を提示して会話をする。</p>	
	<p>— 児童が日本のものについて質問する</p> <p>T: (無言で日本の食べ物の写真を示す)</p> <p>S: それ、なんですか</p> <p>T: ○○です</p> <p>S: おいしいですか</p> <p>T: おいしいです。</p>	<p>「これ、なんですか」ではなく、「それ、なんですか」になることに注意。</p> <p>「日本の食べ物です」という表現を加えることも可能</p>

<p>「これ」「それ」の細かな説明はしなくてもよい。写真を示しながら、話者の近くにあるものを「これ」、聞き手の近くにあるものを「それ」で表現することが理解でき、使用できれば良い。</p>	
<p>会話のパターンを練習したら、学習内容①で扱った形容詞が使える日本のマンガ、アニメ、映画等を提示して会話をする。ポイントは、適切な形容詞を使って2つ目の質問ができるか。</p>	
<p>一様な写真を使い、今日の学習内容を使った会話をする。</p> <p>学習内容③：まとめの自己紹介 私は〇〇です。 私は××が大好きです。××は（形容詞）です。 どうぞよろしく。</p>	<p>会話の中で「好き／きれい」や「知っている／知らない」を使い、これまでの日本語学習と関連付ける。</p> <p>時間があれば、好きなものの説明を加えた自己紹介をする。</p>
<p>まとめ</p>	<p>今日の学習内容を振り返る</p>

1. 本時の目標

(1) 買い物をする「バーガーショップで注文する」

2. 新出の表現と単語

【表現】 ください、いくらですか

【単語】 (店の商品など)

3. 本時の展開

時間	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>●復習</p> <p>「簡単なあいさつ」</p> <p>「呼名と返事」</p>	<p>・カードを使って、思いださせる</p>
展開	<p>学習内容①</p> <p>ハンバーガーショップにある品物の名前を絵カードで確認する</p> <p>ハンバーガー、フライドポテト、コーラ、水、コーヒー</p>	<p>・絵カードを使って確認する。【⑫ハンバーガーショップ：メニュー】</p> <p>・現地語での発音と日本語の発音の違いに気づかせる。</p>
	<p>現地のハンバーガーショップ等で調査をする。「てりやきバーガー」など日本のものや、逆に日本にはないメニューなどがあつたら文化紹介につながる。</p>	
	<p>学習内容②</p> <p>ハンバーガーを買おう</p> <p>ー店で会話であることを、絵で示したうえで、モデル会話を提示する</p> <p>店員：いらっしゃいませ</p> <p>客：〇〇、ください</p> <p>ー児童の一人にメニューを提示し、客役をさせる</p> <p>T：いらっしゃいませ</p> <p>S1：〇〇、ください。</p>	<p>【⑫ハンバーガーショップ：会話場面】</p> <p>店の様子、店員と客の会話の絵カード</p>
<p>絵と金額だけのメニューを用意</p>		
<p>児童の様子を見ながら「〇〇と××」という表現を導入する</p>		
	<p>S2：ハンバーガーとコーラ、ください</p> <p>ー「いくらですか」「〇〇です」</p> <p>数字の確認（一桁）</p> <p>二桁の数字の言い方</p> <p>金額の言い方</p> <p>〇〇円、現地通貨の言い方</p>	<p>2桁の数字までは、日本語はわかりやすい。現地通貨がこの範囲に収まれば、現地通貨を使用して「いくらですか」のやり取りをした方が容易。例：1ドル95（セント）</p> <p>日本円で行うときは、大きな数の数え方を示</p>

		<p>したうえで、会話に必要な金額はできるだけ          言いやすいもの（3桁なら3・6・8で始まらな  <u>いもの</u>：200円、450円など）を選ぶとよい</p>
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>以下、応用練習として「学習内容③ab」などを行う。より適切な・使いやすい店を設定することが望ましい。</p> </div>		
	<p>学習内容③a          その他のレストランで注文をする練習</p> <p>学習内容③b          店で買い物をする練習          八百屋…「りんご3個ください」など数を入れた表現を学ぶことも可能          デパート…「青いシャツください」など色を入れた表現を学ぶことも可能</p>	<p>現地の料理のメニューなどを使用し、前時の会話の復習（これ、何ですか？おいしい？○○ください）を加えることもできる。</p> <p>助数詞は難しいので「バナナ3個」も許容する方向で考える。          名詞接続する際の形（白い・赤い／水色の・緑の）に注意する。          グレイ、ピンク、オレンジなどは「(色)の(名詞)」になるので比較的容易          形容詞ではなく「白のシャツ、赤の帽子」を許容とすればいろいろなものが見える</p>
<p>まとめ</p>	<p>今日の学習内容を振り返る</p>	<p>日本の関心を持ち続けてほしいというメッセージを送る</p>